

「若者が参画して地域を元気にしよう！事業」

邑南町 日貫公民館

1 日貫地区の概要

(1)日貫地区は、邑南町石見地域の中心部から西方向 11 キロへ位置し、17 集落 210 世帯からなる農山村地域で、高齢化率は 48.20%の地域です。

当地区は豊かな自然環境に加え大元神楽など伝統芸能や行事、歴史的な財産である町指定文化財になっている旧山崎邸があり、それを支えて受け継がれてきた「ひとのぬくもりいっぱい」の人柄、風土が根付いている。

(2)日貫地区には、保育所と小学校があり、近年児童数は減少傾向にある。しかし少人数であるものの、地域との繋がりが深く、地域住民と児童の交流の場はたくさんある。また、近年は日貫地区で伝統的な文化である、六調子大元神楽を伝える取り組みもさかんに行われており、小学校の毎年恒例行事である学習発表会での発表の 1 つに六調子大元神楽の発表の時間が設けられており、発表に向けて地域住民が先生役となって生徒に神楽を教える取り組みがされている。

(3)旧山崎邸（隅屋）は歴史的な建造物として、町指定文化財にもなっている古民家で、観光名所となっている。近年は旧山崎邸（隅屋）を活用した取り組みも行われており、春は長浜人形の展示会や、秋には六調子大元神楽のイベント、また小学生の囲炉裏体験などが実施されている。

(4)日貫地区に伝わる伝統的な文化として六調子大元神楽がある。大元神楽は国の重要無形民俗文化財にも指定されているもので、日貫地区には 5 つの神楽団が存在し、秋のお祭りでは、夜から朝にかけて神社で神楽が奉納される。毎年 11 月には六調子大元神楽フェスティバルと題して、日貫公

民館の体育館へ特設舞殿を設置して、大元神楽を披露し、地区内外から見物客が訪れている。

2 事業の趣旨

(1)日貫地区では 10 年前と比較して世帯数で 33 戸、人口では 182 名以上減少し約 30%の減少率を招いており、65 歳以上の高齢化率も 40.7%から 50.1%と約 10%急増し、地域住民の 1/2 は高齢者が占める状況となっている。また少子化も深刻化しており、小学校の児童、保育所の園児も減少の一途をたどっている。青壮年層のうち特に 20 代 30 代の若者の定住人口が 10 年間で約 42%減少している状況である。

現在、日貫地区出身者で邑南町内へ住む 20 代 30 代の若者のうち、日貫地区外の地域へ住む者も多く、地域住民からは「若者に帰って来てほしい」「地域の会議へもっと若い人が参加してほしい」など意見が聞かれ、人口減少が進む中で次世代の担い手である若者の今後の地域への参画が重要になる。年齢構成から見れば年配者に比べ少数派になってしまっている意見を出しにくい現状もあるため、意見を出しやすい場を作ることや、出た意見について具体化し行動してみることで地域へ参画するきっかけとする。また既存の地域行事への参加についても若者に積極的に呼びかけをし、伝統文化の継承やふるさとの魅力を再認識し、日貫地区への U ターン促進につなげる。そして地域住民と関わり合いをもつことで、信頼関係を築き地域の一員としての自覚を持って行動してもらおう。そんな若者を育てるための人づくり・地域づくりを行う。

3 具体的な取組内容

地域のために何かしたいと考えている人材の発掘や、思いや考えがあってもその思いを伝えることをしていない若者もいるかもしれない。これからの地域を担っていく今の若者が地域のことをどう思い、今後どうして行きたいのかを知ること、に取り組むため若者グループ「晴れる会」と公民館が意見交換する機会を持った。この意見交換を自由に自分の意見をいえる場とし、今やってみたいことや地域の行事への思いなどを聞いた。何回か会議を重ねることで「やってみたいこと」を具体化していき、実際に取り組みを行った。

(1) イベントでのバザー出店

8月15日に毎年行われる「日貫地区盆踊り大会」ではこれまで自治会が持ち回りで行っていたものの、自治会とは別に「晴れる会」でバザーを出店し、知り合いの若者などを家族連れで集めるなど、お祭りを地域と一緒に盛り上げた。11月中旬に行われる神楽イベントでもバザーを出店し、地区外や県外の来場者へイベントを楽しんでもらえるよう活動を行った。



(盆踊り大会でのバザーの様子)

(2) 山菜採り

10月中旬に山菜採りを「晴れる会」と公民館が合同で行い、地域の山を散策しな

がらこの時期とれるキノコなどの山菜を採り、講師からその種類などを教わった。



(キノコの種類を教わる様子)

4 評価と成果

(1) 若者同士のつながり

意見交換会では、地域の現状や課題等について若者同士がお互いに意見を言い合っ、交流することが出来た。

(2) 活動内容を自分達で企画

活動内容を自分達で企画して実施することで、企画力が向上した。また企画を通してひとりひとりが当事者の意識を持つことにつながった。

(3) 地域参画へのきっかけづくり

「やってみたいこと」を実施することが出来た。地域とのつながりも少しずつ出来てきて、将来若者が地域へ参画するきっかけづくりを少なからず行うことが出来た。

5 今後の課題と見通し

(1) 30代との関わり

今年関わりの少ない30代も関わっていただける取り組みが必要。

(2) 地域の理解と地域とのつながり

若者が楽しく活動・活躍出来るような環境づくり、時に地域の年配者が若者に協力してくれるような関係づくりが必要。

(文責：職名 主事 氏名 橋本 尚也)